



平成 19 年 6 月 11 日

各 位

会社名 サイボウズ株式会社
本店所在地 東京都文京区後楽一丁目 4 番 14 号
代表者の役職氏名 代表取締役社長 西端 慶久
(コード番号 4 7 7 6 東証第一部)
問い合わせ先 執行役員 経営管理本部長 石井 和彦
電話番号 0 3 - 5 8 0 5 - 9 0 3 5 (代表)

中間業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 19 年 3 月 13 日の決算発表時に公表した平成 20 年 1 月期(平成 19 年 2 月 1 日 ~ 平成 20 年 1 月 31 日)の中間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、連結個別とも通期業績予想に変更はございません。

記

1. 平成 20 年 1 月期中間連結業績予想数値の修正(平成 19 年 2 月 1 日 ~ 平成 19 年 7 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,700	260	80
今 回 修 正 予 想 (B)	5,800	380	130
増 減 額 (B - A)	100	120	50
増 減 率 (%)	1.7%	46.1%	62.5%
(ご参考) 前期(平成 19 年 1 月期中間)実績	4,594	290	57

2. 平成 20 年 1 月期中間業績予想数値の修正(平成 19 年 2 月 1 日 ~ 平成 19 年 7 月 31 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,800	360	210
今 回 修 正 予 想 (B)	1,950	560	340
増 減 額 (B - A)	150	200	130
増 減 率 (%)	8.3%	55.5%	61.9%
(ご参考) 前期(平成 19 年 1 月期中間)実績	1,863	404	228

3. 修正の理由

中間期の個別業績に関しましては、売上は、期初予想を 150 百万円程度上回り、1,950 百万円を見込んでおります。売上増加の主たる要因は、第一四半期において、主力製品のひとつである「サイボウズ ガルーン 2」の新規のユーザーライセンスの売上が、大企業、中堅企業向けに予想より好調であったこと、また既存顧客への年間継続ライセンスに該当するサービスライセンス売上も、引き続き堅調に推移したことがあげられます。なお、第 2 四半期においても引き続き堅調に推移する見込みであることから中間期の業績を修正いたします。

また、経常利益は、売上の増加に加え、広告宣伝費を下期に重点的に配分する方針に変更したことにより、期初予想を 200 百万円上回り 560 百万円となる見込みです。中間純利益は 130 百万円増加し、340 百万円となる見込みです。

このように中間純利益は期初計画を上回る見込みですが、レカム株式会社の株式の市場価格が、第 1 四半期末時点において、取得原価より 50%程度下落しております。中間決算期末において、市場価格が取得原価より、50%以上下落し、かつ、監査法人とも協議した結果、減損したほうがよいと判断した場合は、その時の時価評価に応じて、減損が発生します。50%程度下落していたとすると、評価損は 200 百万円程度発生し、その場合、中間純利益は修正の予想を 120 百万円程度下回り、220 百万円となる可能性がございます。ただし、中間決算期末時点におけるレカム株式会社の株式の市場価格次第では、減損が発生しない可能性もございます。

一方、連結業績に関しましては、売上は、連結子会社の売上が期初予想を 50 百万円程度下回る見込みであるものの、個別の売上が堅調であることから、約 100 百万円増加し、5,800 百万円となる見込みでございます。

売上の増加が見込まれることを主たる要因として、経常利益は期初予想を 120 百万円上回る 380 百万円、また中間純利益は 50 百万円増の 130 百万円となる見込みです。

また、個別業績と同様にレカム株式会社の株式が 50%程度下落し、レカム株式会社の減損が発生した場合、中間純利益は修正の予想を 120 百万円程度下回り、10 百万円となる可能性がございます。

なお、中間期の決算発表は 9 月中旬を予定しております。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社グループで判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控え下さい。

以上